



Y K K

読もう書こう考えよう

みなさんこんにちは、図書館担当の伊丸岡です。1年生の図書館オリエンテーションも進行中!

風薫る5月、万物の息吹を感じる5月、めいとさつきの5月がやってきました。



5月5日はあの「屈原すでに放たれて風邪引いた」(漁父の辞)の**屈原の命日**です。そこから鯉のぼりの吹き流しや、「ちまき」の風習が生まれたという、まことに歴史を感じる5並びの日です。『山月記』の**中島敦の生誕日**(明治41年5月5日)、さらにはボクの誕生日でもあります。

バースデー文庫

みなさんは「バースデー文庫」というレーベルを知っているだろうか?

中身は普通の文庫本なんだけれど、その上に365日別々の日付を入れたカバーを掛けてある。中身はその日に生まれた著名人にちなんだ作品になっています。茶色いカバーにはそれぞれの著者の生年月日や名前、経歴が記載されている。「自分と同じ日に生まれた著名人がどのように考え、どのような生き方をして、どんな本を書いたのか、ぜひ読んでみてください。」とのコンセプトらしい。



大きくなった活字

ボクは**中島敦**の『李陵・名人伝・山月記』などが入っている文庫本を3冊持っています。

1冊目は高校時代に買ったもの。多分授業で中島に出会って買ったのでしょう。当時、文庫本の紙質は**酸性紙から中性紙へ**交替しつつある時期で、ボクの持っている角川文庫版は酸性紙。いまでは天・地・小口から日焼けし、紙全体が茶色い。当時、酸性紙の本は100年でぼろぼろに劣化してしまうだろうと言われていました。ボクは中高生時代、**教科書で出会った作家の他の作品**を自分で買って読みました。いまから思えば図書館を利用すればよかったのだろうけれど、当時学校の図書館には、鬼のような形相をした司書のおばさんがいちいち入館者をにらみつけるもんだから恐くてとても近寄りがたく……。

2冊目は学生時代に買った新潮文庫版。こちらは中性紙に置き換わっており、紙はいまでも白く丈夫。ただ、いかんせん、中性紙になって紙がやや厚手になった初期の造本のためなのか、もう半分ほどのページが背から脱落してバラバラになっています。

3冊目は、2冊目とまったく同じ新潮文庫版ですが、新潮社のカバーの上にさらに「バースデー文庫」のカバーが掛けられた1冊です。駅前イオンの本屋で見つけました。学生時代の2冊目と比べると、中身は全く一緒なのに、**総ページ数が144ページから218ページへと増えています。5割増量、1.5倍!**これはどうしてかという、「活字」が大きくなっているためです。

			1ページの行数	1行の字数	総ページ数	お値段
①冊目	角川文庫	昭和53年刊(酸性紙)	18行	43字	249頁	220円
②冊目	新潮文庫	昭和55年刊(中性紙)	17行	43字	144頁	180円
③冊目	新潮文庫	平成25年刊(中性紙)	15行	36字	218頁	400円+10%

(①と②は内容が異なる。②と③は同じ内容)

中島の『**名人伝**』もおもしろいよ。人は特定の能力が突出して発達するものなのかなあ。弓の名人の話です。『**弟子**』『**李陵**』も読み応えあります。

中高生時代に、**井上靖**もずいぶん読みましたが、1巻ものはずいぶん厚くなり、『夏草冬濤』や『北の海』などは、いまでは上下2巻になっています。

右のバースデー文庫**5月6日**版は、**井上靖**の『**あすなる物語**』。井上靖の誕生日なんです。中島敦の生まれた前年、明治40年の5月6日、旭川の春光町で生まれています。いまの井上靖記念館のある辺りです。



井上靖記念館 春光5条7丁目(あさでんバス停「春光園」まえ) 高校生100円 行ってみよう!

旭川市市制施行100年記念 旭川の詩・三題

①

旭川。

宮沢 賢治

植民地風のこんな小馬車に
朝はやくひとり乗ることのたのしさ
「農事試験場まで行つて下さい。」
「六條の十三丁目だ。」
馬の鈴は鳴り駈者は口を鳴らす。
黒布はゆれるしまるで十月の風だ。
一列馬をひく騎馬従卒のむれ、
この偶然の馬はハックニー
たてがみは火のやうにゆれる。
馬車の震動のころよさ
この黒布はすべり過ぎた。
もっと引かないといけない
こんな小さな敏々な馬を
朝早くから私は町をかけさす
それは必ず無上菩提にいたる
六條にいま曲れば
お、落葉松 落葉松 それから青く顫えるポプルス
この辺に来て大へん立派にやつてゐる
植民地風の官舎の一ならびや旭川中學校
馬車の屋根は黄と赤の縞で
もうほんたうにジプシイらしく
こんな小馬車を
誰がほしくないと云はうか
乗馬の人が二人来る
そらが冷たく白いのに
この人は白い歯をむいて笑つてゐる。
バビロン柳 おほばことつめくさ。
みんなつめたい朝の露にみちてゐる。

へ一九二三(大正十二)年八月

②

旭川

井上 靖

私は十七歳のこの町で生れ
いま、百歳の、この町を歩く。
すべては大きく変わったが、
ただ一つ、変わらぬものありとすれば
それは、雪をかぶったナナカマドの、
あの赤い実の洋燈。
一歩、一歩、その汚れなき光に、
足許を照らされて行く。
現実と夢幻が、
このようにびったりと、
調和した例を知らない。
ああ、北の王都・旭川の、
常に天を望む、凜乎たる詩精神。
それを縁どる、
雪をかぶったナナカマドの、
あの赤い実の洋燈。

へ一九九〇(平成2)年

③

あさひかわ

東 傑

酒と
米と
バルブと
ラーメンと
川と
家具と
氷点下四十一度と
ロータリーと
ナナカマドと
カンタンと
買物公園と
旭山動物園と
旭橋と
大雪山と
そこに
あなたとわたしをあわせて
あさひかわ

(二〇〇四年三月卒業)

①の詩は、宮澤賢治が旭川に1泊したときに作った詩。いまその詩碑が6条通り12丁目、東高校の脇に建っています。ちょうどその辺りを賢治が通ったことが詩に記されています。東高開校100周年の記念事業として建立されました。詩文の文字は**賢治の自筆**ですが、賢治特有の薄くてグニャグニャした筆跡の判読には苦勞したそうです。この碑の「**拓本**」が方々に出回っていますが、この碑面が土台の自然石にはめ込まれる前、石屋さんに行って「拓本」を取ったのはボクです。

じつは裏話があって、ボクは詩文の頭の方から取っていったのですが、あまりに時間がかかるので、同行した某氏が詩文の最後の方から拓採りを手伝った。専門家ではないので、言っちゃ悪いのですがこれがやや粗雑なんですね。薄くてムラがある。

もう一つ逸話があって、拓本を採りながら、文字が抜けていることが判明した。「ポプルス」の4文字が彫られていなかったのだ。後日掘り加えて、そこだけ改めて拓本を取って、貼り合わせたという次第。碑面は重くてホントに大変な作業でした。



なお、題名の「旭川。」には、句点の「。」が付いています。タレントのモーニング娘。ミニモニ。ほっちゃん。キンタロー。みたいだね。



②の詩は、「旭川開基100年」を記念して井上靖が作った詩です。**直筆**を石に刻し、4条緑橋通り、旭川信金本店横に建立されています。

旭川市はことし市制施行100年を迎えますが、1990(平成2)年に「開基100年」を迎えています。これは、1890(明治23)年、上川郡に旭川村・神居村・永山村の3村が置かれたのを初めとしたものです。「開基」という言い方は先住のアイヌ民族に対して礼を欠いているということで、最近ほとんど使用されなくなっています。

井上靖の直筆詩「旭川」の複製が、本校1階生徒ホールに飾られています。カクカクの四角四面で几帳面な書風が、井上の性格そのままのようです。

なお、春光の井上靖記念館では、2/5から**5/22(日)まで企画展**、井上靖・人と文学Ⅻ「『わが母の記』を巡って」が開かれています。『わが母の記』は昭和50年に出版され、平成24年には役所広司主演で映画化もされました。しみり、じわーとくるいい作品ですよ。

井上靖は幼少期、血のつながりのないおばあさんに育てられました。そのころの体験をベースに書いた『**しろばんば**』や『**あすなろ物語**』、『**夏草冬濤**』などは「自伝的作品」と分類されますが、似た境遇にあって親近感を持ったボクは、中学生の頃よく読みました。おばあさんに育てられたからこそ、井上作品はどこか慈愛、人間愛に満ちた視点なのかなと思います。

ぜひとも旭川出身の井上靖作品、1冊くらいは読んでおいてほしいと思います。

『井上靖全集第7巻』所収 井上靖 新潮社 (個人全集の棚にあります)

③の詩もなかなか味があるでしょう? 淡々と、旭川の名産、風物を並べただけなんだけれど、最後の3行がにこいですね。前々任校での書の授業時、2年生が作った詩です。自作の詩文で旭川をテーマに書作しようという単元でした。書の方はイマイチでしたが、詩がいいね。本人にあちこちで紹介させてもらう許可を得ています。元氣かなあ?

ほかにも、旭川には多くの文人が訪れ、多くの文芸作品が作られています。常磐公園の「**文学資料館**」には数多くの旭川関連の文学資料が展示されています。石川啄木も旭川に1泊し、『一握の砂』に3首残しています。旭川駅内の**観光物産センター**にその歌が刻まれた**啄木像**が設置されています。

井上靖記念館、**三浦綾子記念文学館**もあわせて、旭川にいる間にぜひ一度は訪ねてみよう! 誇れるものがたくさんあるんだよ! そして、三浦綾子作品もぜひ、読んでみよう! 『**氷点**』『**塩狩峠**』『**母**』『**銃口**』『**泥流地帯**』などなど、名作がいっぱい! GW中に、三浦綾子作品に挑戦してみないか?

なんでだろう? 学校あるある

「スーツに運動靴」

「体育行事の日はジャージ」

「とっさの時大丈夫? サンドル履き」

これらは、ボクがガッコのセンスになってから言われて気づいたことです。



たしかに「**スーツに運動靴**」って、ガッコのセンス独特のスタイルだよな、と思っていたら、最近では通勤時に一駅ぶん歩くとか、会社帰りにジョギングしたり自転車通勤するために、「**スーツに運動靴**」もあり、らしい。が、職場の中で「**スーツに運動靴**」は、やっぱりガッコのセンスくらいでしょうね。

「**体育行事の日はジャージ**」。これは生徒の「ジャージ登校」のことではない。センスが競技するわけでもないのにジャージを着ているということなのだ。むかしの学校行事で球技大会なんかでは先生チームも出場したり、文化祭で先生の出し物(職員劇)や、クラスそろって歌合戦のクラスの3人1チームの中に担任を入れるとか、まあ、一緒に楽しんだりしたこともありました。ボクも新卒の頃、ボーナス払いでジャージやウインドブレーカーなどを買ったものでした。でもなあ、借金までして買わなきゃならなかったんだべか?

「**とっさの時大丈夫? サンドル履き**」。これは、たとえば生徒が倒れた、ケガをした、ケガをしている、災害が発生した、なんて言うときに、サンダル履きでとっさに駆けつけられるか、ということを問われたことがあります。なるほどですね。ですから。やっぱりセンスは「**スーツに運動靴**」が正解なのでした。

『女のいない男たち』 村上春樹 文藝春秋 (作家別日本文学の棚)

村上春樹原作の『ドライブ・マイ・カー』が映画化され、アメリカのアカデミー賞で、国際長編映画賞を受賞したニュースがありました。映画は3時間ものなので、腰痛を持つボクは食指は動かないのですが、原作は読んでいます。え? こんな短くてほとんど内容がないような話が3時間もの映画になるの? という感想です。

ところで、この『ドライブ・マイ・カー』は、『女のいない男たち』というタイトルでまとめられた短編集の中の1編です。6編収められており、2014年に単行本が出、翌々年には文庫になっています。最近、アカデミー賞受賞で、爆売れしているようです。

この中の『イエスタデイ』という作品に、主人公のこんな台詞があります。

それまでの十八年間の人生を振り返ってみると、僕の身に起こったことの大部分は恥ずかしいことばかりだった。思い出したくもないようなみっともないことばかりだった。

主人公は現在二十歳の大学生ですが、出身は兵庫の芦屋。でも、こう独白するように、それまでの18年間をリセットしたくて上京、進学し、これまでとは違う人間として生まれ変わりたいがために、関西弁も一切口にしなくなったという。なんか、わかるような気がします。

ボクが大学1年の時入っていた学生寮には、日本全国まんべんなく各地方出身者が入っていましたが、概して関西弁をしゃべるやつらは押しが強かった。とくに九州勢は。東北勢は口数が少なく、特異だったのは東北出身なのに関西弁でよくしゃべるやつだった。まるでこの『イエスタデイ』に出てくる「木樽」という男のように。

いやあ、寮生活は辛いことも多かったけれど、おもしろい話もたくさんありました(寮母さんの名字がたしか「永嶺」さんだった。この学校に転勤が決まったとき、寮母さんのように「ながみね」って読むのか、音読みだと「エイレイ」なのか、と迷いました)。ここ(図書館だより)にはふさわしくないでしょうから寮(当時ボクらは「**牢**」と呼んでいました)生活のあれこれは書きませんが、数年前、どこかでボクの名前を見かけて連絡してきた広島 of 寮友がいます。いま高校の校長をしているらしいが、当時から明るく元気よく、人を引き込む魅力のある男でした。いい先生になったんだろなあ、と思います。

十八、九のころ、日本全国の友人がたくさんできる経験というのは貴重です。そういう大学に進学するのも一生の財産を築けるんじゃないかな、と思います。世界各地からの留学生が多い大学ってのも、ありでしょうね。いろんな文化や異なる価値観に触れるのは、若いうちがいいでしょうねえ。そのためには、自分の文化や価値観を語れる人にならなくちゃ。旭川のこと、北海道のこと、日本のことを語れるようにしなくちゃ。

5月のあれこれ

5月は**1日**の「メーデー」からはじまります。May Day は、世界各地で行われる労働者の祭典。労働者が団結して要求を掲げ、集会やデモ行進が行われる。1886年5月1日、アメリカはシカゴでゼネラルストライキを起こしたことが発祥。その要求も「1日8時間労働」。当時の労働者は何時間働かされていたのでしょうか？

日本での第1回メーデーは1920(大正9)年、上野公園で。昭和11年から禁止されて昭和21年復活。北海道でのメーデーの発祥は小樽、大正15年のことでした。労働者のさまざまな権利や生活の向上を勝ち取ってきた歴史があります。

ゴールデンウィーク中の各祝日、休日の意味を知っているでしょうか？

まず**4月29日**は「3度」も名前が変わった日です。「天皇誕生日(昭和)」→「みどりの日」→「昭和の日」。

5月4日はもともと平日だったのが、祝日と祝日に挟まれた日は「国民の休日」にしようということで休日となり、4月29日が昭和の日と改称された際に、5月4日を「みどりの日」にしたのです。

なお、**5月3日**は制定当初から「憲法記念日」。今年で施行75年を迎えます。

GW 途中にある**5月2日**は本校の開校記念日です。これまでの各勤務校では、開校記念日に学年通信や全校通信で学校の歴史を紹介した1枚を作って配布してきたのですが、本校では書いたことがありません。なぜなら、まだ開校して7年目で特筆すべきことがないこと、5月2日であることの原因がわからないことが挙げられます。旧凌雲高校の開校記念日でしたが、どういう理由でそれをそのまま踏襲したのか、あるいはなにかいわれがあってこの日にしたのか、なにか書いたものがあればいいのですがいまのところ不明です。これからすばらしい校史が刻まれていくことを願っています。ボクの高校時代は、開校記念講話という行事があって、著名なOBを呼んだりしていました。森田公一って知ってる？「青春時代」という歌を作った人。たい平が歌う「青雲」という線香のCMソング作った人。

5月5日は端午の節句ですが、北海道は**べこ餅**、内地は**柏餅**、という違いを知っていましたか？

さらにさらに、**5月15日**は沖縄復帰50周年の日。77年前の今頃は米軍が沖縄に上陸し、20万人もの戦没者を出す激戦が戦われていたさなかでした。そうして戦後27年間にわたって米国の統治下に置かれ、やっと



1972年に返還されたものの、基地問題、格差問題など、まだまだ沖縄の人々は苦勞しています。そんなことにも思いをはせる5月にしてほしい。新聞、読もう。読んで考えよう。考えを書いてみよう。

5月のうた

旅 上

萩原朔太郎

ふらんすへ行きたしと思へども
ふらんすはあまりに遠し
せめては新しき背広を着て
きまなる旅にいでてみん

汽車が山路をゆくとき
みづいろの窓によりかかりて
われひとりうれしきことを思はむ

五月の朝のしののめ
うら若草のもえいづる心まかせに

あたらしき背広など着て

旅をせむ

しかく今年も思ひ過ぎたる

啄木

啄木の歌は明治43年刊の第一歌集『一握の砂』所収。
萩原朔太郎の詩は、大正14年刊『純情小曲集』所収。

つまり、貧乏啄木はパリッとした背広を新調して旅に出たいと思うものの、お金がないから思うだけだなあ、今年も。そんな歌です。当時、旅に出るときにはパリッとした服を着て出かけたんだね。

一方、朔太郎もまた、5月の陽光に誘われて旅に出たい。しかも夢はでっかくフランスへの洋行。パリッとした背広を着てパリへ!トレピア〜!でもそれはかなわないから、のんびり汽車で山路を越えてゆこうという。

旅は人を育てる、といいます。旅の経験は人生の大きな肥やしにもなり得る。若いうちに、貧乏旅、苦勞旅の経験をぜひ。

50周年あれこれ

ことは様々な出来事の50周年、半世紀。すなわち**1972(昭和47)年**という年には様々なことがあったということ。なんでも「コンビニエンスストア」が日本にできてから50年なんだとか。新聞に特集記事がありました。学生時代、まだ道内各地にコンビニができていない頃、帰省した折に、姉に「東京にはコンビニエンスストアというのがあって、なんでも売っていて、便利なんだよ」と説明しましたが、具体的にどんな店なのか、近所の雑貨小売り商店やスーパー(いまに比べればちっちゃいスーパーです)と比べてどんな風に違うのか、説明に苦勞した覚えがあります。みんなは「コンビニエンスストアを説明しなさい」と言われたら、どんな説明をしますか?

1月24日 グラム島で、元日本兵・横井庄一さん発見(戦後27年間ジャングルに潜伏)

2月3日〜 札幌で冬季オリンピック開催

(この前年末、札幌市営地下鉄、道内初の高速道・札幌自動車道開通)

2月19日 あさま山荘事件

3月 高松塚古墳壁画発見

4月1日 札幌が政令指定都市に

4月16日 川端康成ガス自殺(日本人初のノーベル文学賞受賞者)

5月13日 大阪・千日デパート火災 死者118名、日本のビル火災史上最大の惨事

5月15日 沖縄返還、沖縄県発足

9月29日 田中首相、訪中し、日中国交正常化宣言。

記念に中国から初めてのパンダ(ランラン・カンカン)上野動物園へ

だいたいのは覚えているなあ。札幌の地下鉄の改札は、無人の自動改札だったので、進学して東京に行ったとき、まだまだ有人改札だったのは驚きました。でも、何百何千の改札通過者の切符に瞬時ではさみを入れていく早業は名人芸でした!



こんな夢を見た

「こんな夢を見た」で始まるのは、夏目漱石の短編『夢十夜』。

今年度の始まる前日、つまり4月7日の朝、ボクはこんな夢を見た。

ボクはなぜだかM高のおそらく美術教室で、その美術の先生が創ったと思われる彫刻作品などを鑑賞している。よいものを見せてもらったと、お礼のメモ書きを残して退出しようとするのだが、ボクの肩書きというか所属校の名前が書けない。「永嶺」の字が出てこないのだ。「エイリョウ」とはわかっているのだが、さらには2字めは「ミネ」という字だとはわかっているのだが、「永嶺」が出てこない。

「ミネ」ってどんな字だっけ?と声を絞って叫ぶと、この春N高に異動したはずのK教諭が教壇に立っていて、「峯」だよ、って教えてくれている。ん〜、それも「ミネ」だけど、なんか嘘を教えられているような気がする。でもわからない。そんなもどかしさが延々と続く夢だった。

ふだん、目覚まし音よりも必ず早く起きる習性なのだが、この日に限って、目覚まし鳴っていたのにも気づかないくらい「峯じゃないはずだけど、どんなミネだっけ?」と延々ナヤンデルタル人と化していた。

誰か教えて、この夢の深層心理を。

閑話休題、まだ漱石の『夢十夜』を読んでいない人はぜひ読んでみよう!下記の文庫の他、計5冊に『夢十夜』が入っている本があります。



『文鳥・夢十夜・永日小品』 夏目漱石 角川文庫

(文庫の棚「な」にあります)

『とんび』 重松清 文藝春秋 (作家別日本文学の棚)

重松はいいよなあ。おもわず志村けんの「いいよなおじさん」になってしまいます。

『とんび』はいま映画が上映されています。テレビドラマにも2度なっています。堤真一主演のドラマと、内野聖陽主演のドラマ。今回の映画は主人公ヤスを阿部寛が演じます。

重松作品はどれもいい。きっと、ボクと同じ年代ということもあるのだろうけれど、『かあちゃん』『せんせい。』『旧友再会』『卒業』『その日のまえに』『ビタミンF』(以上単行本)、『きよしこ』『流星ワゴン』(以上文庫本)など、計32冊が本校図書館にあります。ボクん家の図書室にはもっとたくさんありますデス。

～ ことばつれづれ ～

閑話休題、ってなんだ？



「閑話休題」は、そのまま「**かんわきゅうだい**」と読みます。「それはさておき」といったような意味です。

前項の漱石『夢十夜』でも使いましたが、この四字熟語の使い方が、わりと間違えられるという。

話題が本筋から離れたときに、もう一度本題に戻すときに「閑話休題」と、接続詞的に用いるのが正解。「閑話」はひま話。「休題」は言うことをやめる意。この四字熟語は明代の『水滸伝』を出典とする由緒ある熟語なんです。

ところが、これから余談にズレていこうというときにこの語を使う誤用例が、見られるそうです。そういうときには「余談ですが」と言えばよい。

誰だったか、この四字に「**さて**」とふりがなを当てた作家だか文筆家がありました。なるほどなあ、と感心した覚えがあります。

等

毎年身体測定の日になると思い出します。

ボクが高校1年生のときでした。45人学級、全校30クラスの学校でしたから、身体測定は学年ごとに測定の時間帯が指定され、学年によって「時差登校」でした。丸一日授業はない。そんな経験は高校に入って初めてで、なんだかとても大人になったような気分でした。いつもと違った早い時間に学校を退けることになったボクは、帰り道にある同級生の自宅に立ち寄ることになりました。

そいつの家の玄関には**表札**がかけられていて、〇〇(名字)□□(名前)、たぶん1列目は親父さんの名前。2列目はたぶんお袋さんで□□子(名前)。最後の列に「等」って書いてある。それで、ボクは友人に「お前の名前はなんて言うんだ？」って聞いたんです。そしたら「最後のだ」っていうから、「□□子じゃないよな？え？この最後の字って『など』じゃないの？」って聞き返して頭なぐられた。「『など』って読む名前があるわけないだろ。ひとしだ。それに『など』で以下省略する表札がどこにあるか」というわけだ。

いまは家族全員の名を書いた表札をかける家は珍しくなりましたし、名字だけの表札すら出さない家が多くなりましたが、身体測定の日になると「等」という名前を持った同級生の家の表札を思い出します。

10B

最近子どもたちの使う鉛筆の硬さは、2Bから6Bが主流で、10Bや12Bという鉛筆もあるという。トンボ鉛筆によると、鉛筆の販売数量を硬度別に見ると、1999年はHBが43%でトップで、2Bは22%どまり。だが、2019年は2Bが51%とトップに立ち、HBは20%と半減している。



ボクが小学生の頃はHBが標準というか主流というか当たり前だのクラッカーだったような気がします。少し学年が上がるとH、2HなどとH度が強くなる傾向に。線がシャープでかっこよく見えたのでしょうか。でも今は逆なんだね。Hはハード(硬さ)、Bはブラック(濃さ)の意だそうだが、昔はシャープさ、ハードさが人気で、いまはハッキリ、どっしり、細部まで明瞭、やわらかさ、なめらかさ、が受け入れられるんだろうか。

理由の一つは、子どもたちの筆圧の低下が考えられるという。そのため、筆圧が弱くても書きやすいように、芯が太くてやわらかな鉛筆が人気になってきたのではないかな。三菱鉛筆は08年から、オリジナルの10Bを「筆鉛筆」と名付けて販売し、人気だそう(読売新聞から抜粋引用しました)。

ボクもいまはやわらか系が好ましく、ボールペンももっぱらジェットストリームです。昔ながらの油性ボールペンには戻れません。

新聞切抜き拾い読み

ここに取り上げた記事は、図書館前掲示板に掲示中です！

館内には3紙の新聞があります。新聞を読む習慣を！



▼「総合型選抜や学校推薦型入試 どう準備 コロナの影」 朝日新聞 4/18

総合型選抜(旧 AO 入試)や学校推薦型選抜(旧推薦入試)の志願者数が増えているという。本校でもこの制度による進学希望者は多い。

ところがこの足かけ3年にわたる(つまり現3年生の入学当初以降)コロナ禍で、通常の学校生活では語れる体験が限られてくる。しかし、だからこそ、自分が本当にやりたいことは何かを突き詰め、自主的活動を深め、それを志望先に売り込む自分を作っていく、そんな体験を持つ大学生のインタビュー記事が載っていました。農業に興味があり、自宅の隣の農地で作物の生長を記録した経験などを志望理由書に書いた A さんは、筑波大に推薦で合格。たしかに、受け入れる大学の側になって考えてみれば、ただまじめに3年間部活動をやってきました、だけじゃ、それほど「取りたい学生」にはならないよなあ、実際。近年、「課外活動の実績」よりも、「大学の特色に合った意欲ある学生」を求める傾向が強くなっているそうです。

▼「『する落ち』 街のB級言葉図鑑」 朝日新聞 be 4/16

「メイク じゅわっと浮かせてする落ち!」という、ドラッグストアの商品棚にあるパッケージに書いてあることばを、辞典編纂者・飯間浩明氏は見逃さない。何を「浮かせてする」んだろう?横の商品に目をやると、「こすらず すご落ち」とある。なるほど、「浮かせて、する落ち」なんだ、と。

こうした「擬音+動詞」パターンの造語例としては他に、

「ガチャ切り」 電話をガチャッと切る切り方。受話器を乱雑に放り置くクセのある人、いますねえ。

「ギャン鳴き」 子どもがギャンギャン泣く。

ほかにも、「がた落ち」「どか食い」「べた食い」「びしょぬれ」を挙げ、最近の例として、

「ガン見」「ゴン攻め」「チラ見せ」「ブチ切れ」なども挙げています。

おもしろいですねえ。さすが「ことばハンター」。

▼「築40年の分譲 住み続けたいけど 高齢化するマンション」 朝日新聞 4/14

新築時の入居者もいまは70~80代。認知症の住民が増えつつあることや、上がりつつある修繕費の問題なども、マンションの新たな問題になりつつあるのだという。

そうだよなあ。ボクがいまの家に越してきたころは、町内に子どもがいっぱいた。でもいまは高齢者ばかりになり、独居世帯も少なくない。おまけに空き家も増えた。地域は間違いなく高齢化しています。

そうだ! 図書館へ行こう!

(文責 伊丸岡圭一)